2019年1月16日
建設通信新聞
（東京会場）

働き方改革と生産性向上に全力

集約化を進めるほか、西松建設は「工務革新センター」を設け、現場業務の一部を内勤社員で行う取り組みに力を入れる。

つは、鹿島建設の土屋哲男社長が「働き方改革と多能工化やロボット化が進み、生産プロセスの変革が引き金となって重層構造などの産業構造自体の変革につながることは否定できない」と表現したように、働き方改革と生産性向上の先には、産業構造の変革が待ち受けていることを各社が意識する時期に入っている。

（竹本啓吾）

情報ネットワーク分野で、顧

ネットワークエンジ

総合資格が会
資格祝賀
総合合格

講習、指導体制を強化
ストレート占有率62％

建設・不動産関連の資格スクール「総合資格学院」を運営する総合資格（東京都新宿区、岸隆司社長）は14日、2018年度の1級・2級建築士試験など各試験の合格祝賀会を全国各地で開いた。

＝関連5―9面

このうち、東京地区では新宿区にあるハイアットリージェンシー東京で修了証授与式・祝賀会が行われ、講師や合格者など約650人が参加して喜びを分かち合った＝写真。

冒頭、あいさつに立った岸学院長は「昨年の1級建築士試験では全国のストレート合格者のうち当学院現役合格者の占有率62％を達成するなど、この5年間の合格者の57％を当学院の受講生が占めている」と強調。その上で「日本一の講習システムと指導体制をさらに強化し、猛進していきたい」と語った。

来賓で建築家の伊東豊雄氏は30歳で合格したという若かりしころを振り返りつつ、「将来の展望がない中で仲間と夢を語り合ってきた。プロジェクトに命を吹き込むことが建築士の役割であり、頑張っていれば必ず夢は実現できる」と合格者にエールを送った。

六鹿正治日本建築家協会会長は「これから業務の幅が広がり、よりスピーディーに変化する時代の中で、社会の期待に応えてほしい」とし、近角真一東京建築士会会長は「より良い建築を実体験しながら自学自習を重ねることが大切だ」と呼び掛け、山下登東京都建築士事務所協会副会長も「これから素晴らしい建築士として社会で活躍してほしい」と合格者を力強く激励。古谷誠章日本建築学会会長からのビデオメッセージも紹介された。

この後、修了者を代表して2級建築士に合格した高久乃さん、受講生を代表して1級建築士合格者の泊絢香さんに修了証を授与したほか、合格を支えた功労講師に岸学院長から感謝状が贈られた。

また、祝賀会に先立ち、小堀哲夫氏（小堀哲夫建築設計事務所）と吉村靖孝氏（吉村靖孝建築設計事務所、早大）、五十嵐淳氏（五十嵐淳建築設計事務所）、西田司氏（オンデザインパートナーズ）の若手建築家4人がルーツを振り返りながら、いま話題のテーマについて討論するトークセッションコロシアムも行われた。

ドアンドアテリアル

テープのみで化粧板施工

ソリューションを設計、施工、運用・保守までトータルに提供している。SSSの事業を譲り受け、大規模工場向けネットワーク事業をさらに強化することで、トータルシステムソリューションをより幅広い分野の顧客に提供できる体制となる。

同社は統合効果を発揮し、情報通信事業をさらに拡大、

時間使用しても耳や目への負担がほとんどない。めがねをかけていても、ストレスなく使用できる。光学ユニットは簡単に装着・脱着が可能で、視界を妨げないソニーセミコンダクタソリューションズのホログラム導光板ディスプレーモジュール「SED―10OA」を搭載した。

また、AndroidOS用のSDK（ソフトウェア開発キット）も提供している。既存システムと連携してウェアラブルを活用したり、ユーザーが開発したアプリケーションソフトを自由に使用できる。

使うこともあり廃棄物の発生も課題だった。

ステンドSpeed工法は、ポリオレフィン発泡体を基材とし、アクリル系粘着材を使った両面接着の「ステンドSpeedテープ」のみで化粧板を施工できる。一般的な910㍉×2420㍉の化粧板1枚当たりでは、ピッチ300㍉以内で4列と幅方向

逆転の発

宮地エンジ
同災害防止
区の鉄鋼会
会を開いた
業や協力会社

×2420㍉する際のテ
・4点で済
できる。

実証実験
した試験体
した加振を
の脱落はな